

週日（無原罪の聖マリアの祭日）の説教

金 大烈 神父 2011年12月8日（木）

《無原罪の聖マリア ～従順も信仰も練習が必要～》

昨夜9時くらいに、アメリカのテレビを見ていたら、ニュースの終わりに面白い話が流されました。

強盗が、人のあまり通らない道で信号待ちの車をねらったのだそうです。止まっている車に、「すみません」と呼びかけると窓を開けますね。そこに拳銃を突きつけて、「持っている金目のものを全部出せ。」と脅したのです。ところが、逆に拳銃を奪われてしまい、「助けてください」と叫ぶまで運転手に叩かれたのです。実は、車を運転していた人はテコンドウという格闘技の先生でした。だから、拳銃を突きつけて脅したのに、逆に拳銃を奪われてしまい、死にそうになるまで叩かれたのです。「助けてください。赦して下さい。」と叫んで、やっと助けてもらったのだそうです。

もしその強盗が、相手は力のある人だと思っていたら、手を出さなかったでしょう。自分がやられると思えば、拳銃を突きつけて脅したりはしなかったでしょう。知らなかったから、拳銃一つでお金を奪うことができるだろう、と考えて実行したのでしょう。けれどもできなかったのです。その強盗を捕まえた人は、「私はこういう仕事をしているので、このくらいはごく日常的事務的なことなのです。」と語っています。

このニュースを見て、「この強盗がしたことは、私たちが神様にしていることと同じではないか。」という気持ちになりました。私たちも、神様に対して言うてはいけないことを言い、持つてはいけない心を持っている時があるのではありませんか。皆様も神様を侮辱したことはありませんか。もし、神様に対して、この格闘技の先生のようにたくさんの力を持っていて、全知全能だと思う強い信仰心があれば、あえて「神様、これはおかしいのではありませんか。」とか「神様は存在していないのかもしれない。」などと否定をすることは出来ないでしょう。

侮辱するというのは、神様は愛によって私たちが創られたのに、その愛に逆らう振る舞いをしたり、心を持つたりすることです。そのように考えると、神様を侮辱したことの無い人がいるのでしょうか。

易しく言えば、罪というのは神様の心を痛めることです。しかし、私たちは毎日罪の中にいます。無意識のうちに、神様を痛める心を持ち、振る舞いをしているのではないかと思います。

だから、今日の福音(ルカ 1・26 - 38)の物語を読んで、神様がどのくらい私たちが愛されているのか、どのくらい私たちのために心を痛めて、私たちが正しい道を歩むように望んでいらっしゃるのか分かれれば、私たちの生き方は変わるのではないのでしょうか。もし毎回、毎回、同じ罪に悩んでいるならば、先ず神様の御心を想像してみたいと思います。

今日の福音を考えてみましょう。なぜマリア様が私たちの母なのでしょう。なぜ私たちはマリア様を尊敬するのでしょうか。理由はただ一つです。マリア様の神様に対する揺るぎない、絶対的な信仰、信頼心のためです。そして、信じたことをそのとおりに行ったためです。それは従順すること、従うことです。マリア様が昇天されるまで、聖書に書かれている全てのマリア様の話は信頼と従順の

物語でした。

私たちは、神様にどのくらい従順しようとしているのでしょうか。もし神様から、「これが正しいことで、あなたが本当にしなければならないことだ。」と言われても、それをどのくらい信じて、固い信仰でその道を歩もうとしているのでしょうか。振り返ってみると、やはり私たちはマリア様には及ばないでしょう。

毎日の生活が正しい心、福音的な心で生きようとすれば、いつか自分が予想できないようなことにぶつかった時にも、自然に福音的な態度が表れるのではないのでしょうか。

今日皆様に申し上げたいのは、従順も信仰も練習が必要だということです。毎日、「疲れる」、「つまらない」という気持ちで過ごしているかもしれません。しかし、意識して、小さいゴミを拾ってゴミ箱に入れるこの小さな振る舞いも、いつか私にとって素晴らしい態度を見せる力になる、神様に従順する一番大きい力になる、という希望を持ちながら頑張ればよいと思います。

マリア様が見せてくださったことをもう一度考えてみましょう。一つはゆるぎない信仰。もう一つは、信じていることをそのとおりに実践する、つまり従順することです。私たちはみんな、イエス様と神様をこのような心で迎え入れようとする態度が必要ではないのでしょうか。

ありがとうございました。